

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに第126期第1四半期（2019年4月1日から2019年6月30日まで）の営業概況をご報告申し上げます。

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、米国では景気拡大が続いたものの、米中貿易摩擦の激化やその影響等を受けた中国の景気減速等により、不透明な状況で推移しました。わが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復が続いたものの、輸出や生産を中心に弱さがみられ、足踏み状態となりました。

このような状況下、当社グループは「グローバルでの“成長”」と「高収益体質への“変革”」を目指して2012年度から進めてきた一連の中期経営計画「Growth & Change」の最終ステージとなる「Growth & Change 2021」を策定し、①収益力の向上、②グループシナジーの発現、③戦略製品の拡充、④イノベーションへの挑戦、⑤さらなる企業基盤の強化を重点テーマに掲げて取り組みを開始しております。

本中期経営計画では「G&Cの完遂と次なる成長に向けて」を基本方針として、前中期経営計画で拡充した事業の収益力向上に軸足を置き、次なる成長に向けたキャッシュ・フロー創出能力の拡大を図ります。並行して、お客様や社会のニーズを捉えた新事業・新製品の開発に引き続き取り組み、2021年の当社創立100周年を越えて持続的な成長を目指します。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年9月



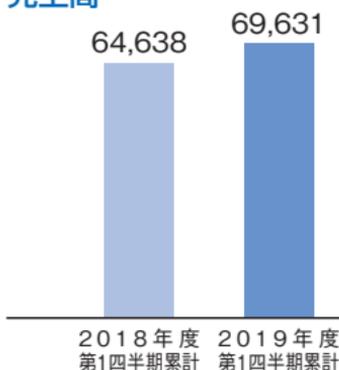
代表取締役社長

高松信彦

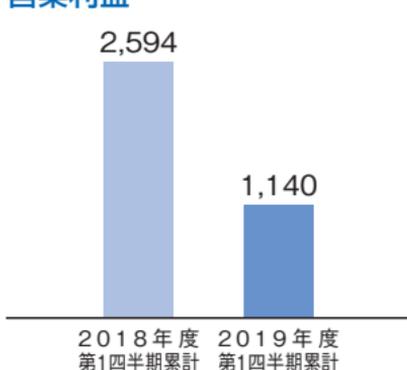
連結業績の推移

(単位：百万円)

売上高



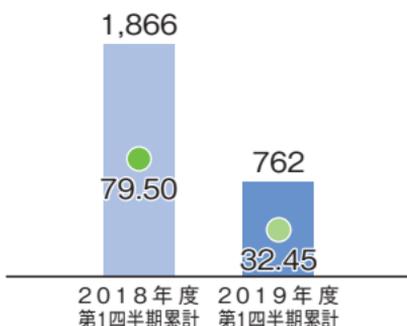
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期純利益 (■) 1株当たり四半期純利益 (●) (円)



四半期連結貸借対照表 (要約)

(単位：百万円)

| 科目 | 2018年度末 | 2019年度 第1四半期末 | 科目 | 2018年度末 | 2019年度 第1四半期末 |
|-------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 資産の部 | | | 負債の部 | | |
| 流動資産 | 141,751 | 136,261 | 流動負債 | 97,907 | 100,369 |
| 固定資産 | 142,447 | 143,925 | 固定負債 | 73,929 | 67,429 |
| 有形固定資産 | 99,986 | 101,348 | 負債合計 | 171,836 | 167,799 |
| 無形固定資産 | 5,160 | 4,988 | 純資産の部 | | |
| 投資その他の資産 | 37,300 | 37,587 | 株主資本 | 106,413 | 105,527 |
| 資産合計 | 284,198 | 280,187 | その他の包括利益累計額 | 4,890 | 5,753 |
| | | | 非支配株主持分 | 1,057 | 1,107 |
| | | | 純資産合計 | 112,362 | 112,387 |
| | | | 負債純資産合計 | 284,198 | 280,187 |

セグメント別の営業概況

鉄鋼事業

売上高 19,052百万円 

営業利益 1,020百万円 

電炉業界においては、建設向け及び製造業向けともに鋼材需要が減少しました。また、主原料である鉄スクラップ価格が下落したものの、電極や合金鉄等の副資材価格が高止まりする等、コスト面で厳しい環境が続きました。

このような環境の中、コスト改善等に引き続き取り組むとともに、適正な販売価格の維持に努め、鉄スクラップ価格との値差は拡大しましたが、販売数量が減少いたしました。

自動車・産業機械部品事業

売上高 47,115百万円 

営業利益 1,332百万円 

自動車業界及び建設機械業界は、不安定な世界経済の影響を受けました。自動車業界は、国内自動車生産台数が前年同期比でおおむね横ばいとなりましたが、北米や中国では生産台数が減少しました。建設機械業界では、東南アジアや中国において日系メーカーの油圧ショベル販売が減少したことに加えて、在庫調整の動きがみられました。また、東南アジア等で鉱山機械需要が減少しました。

このような環境の中、アルミホイールメーカーの旭テック株式会社の新規連結効果がありましたが、建設機械用足回り部品や鉱山機械用ホイールの販売数量が減少いたしました。

発電事業

売上高 1,842百万円 

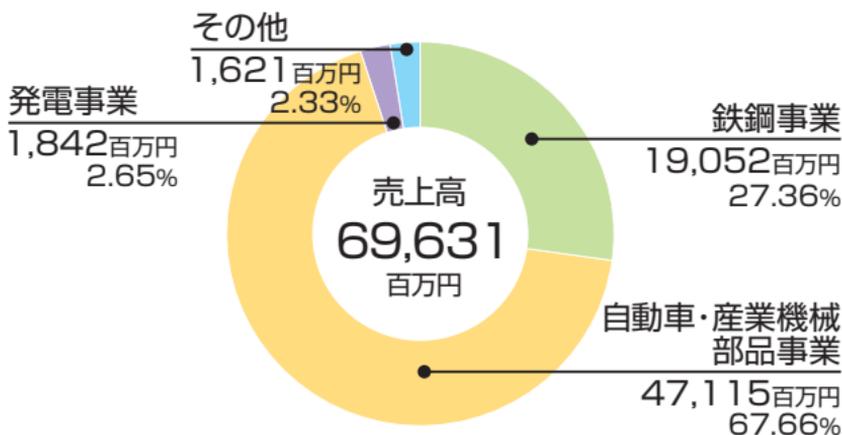
営業損失 206百万円 

事業計画に沿って安定した電力供給に努めてまいりました。発電燃料である石炭価格が上昇したことに加えて、発電所の定期修理の影響を受けました。

その他

売上高 1,621百万円 

営業利益 294百万円 



連結業績の予想

| | 2018年度通期 実 績 | 2019年度 第2四半期累計 予 想 | 2019年度通期 予 想 |
|---------------------|-----------------|--------------------------|-----------------|
| 売 上 高 | 286,227百万円 | 149,000百万円 | 307,000百万円 |
| 営 業 利 益 | 7,505百万円 | 4,200百万円 | 11,000百万円 |
| 経 常 利 益 | 9,357百万円 | 4,400百万円 | 11,400百万円 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 7,114百万円 | 3,100百万円 | 8,000百万円 |
| 1株当たり当期純利益 | 302.85円 | 131.94円 | 340.49円 |

配当の状況

| | 2018年度 実 績 | 2019年度 予 想 |
|--------|---------------|---------------|
| 第2四半期末 | 20.00円 | 40.00円 |
| 期 末 | 70.00円 | 50.00円 |
| 合 計 | 90.00円 | 90.00円 |



従業員数：109名（子会社含 1,067名）（2019年3月末現在）

生産品目：乗用車用アルミホイール、二輪車用アルミホイール、
アルミ重力鋳造部品

2018年5月にトピー工業グループに加わった旭テック株式会社は、1916年の創業以来、鉄製品の鋳造技術を武器に事業を展開し、その技術力を生かして1950年代に軽合金分野のアルミ事業に進出しました。現在は、日本で設計、開発したアルミホイールを競争力のある中国とタイの工場で生産し、日系自動車メーカーを中心にグローバルに供給しています。

世界の自動車生産は、新興国を中心として長期的に拡大し、自動車用ホイールについても需要の増加が見込まれます。また、自動車業界では低燃費性能を実現するための軽量化をはじめとして、カラーやデザインの多様化、高遮音性能へのニーズが高まっています。

旭テック株式会社は、トピー工業グループ各社とのシナジーを最大限に発揮し、グローバルで拡大する需要を捕捉するとともに、市場のニーズに応える製品開発に注力してまいります。



自動車用ホイール



二輪車用ホイール